

御貴庵（ごきわん）跡

上一ノ井手藤原団地入口一帯は「ごきわん」といわれている。室町時代に山口にいた雪舟の館を雲谷庵と言っているように、ここに領主の館があったからではないだろうか。館の主は、野上氏ではないかと思われる。

領主野上氏は城山（じょうやま）に城を築いていざという時の備えをし、平素は平地に近いこの地に館を構えていたようである。

總持院跡

昔三番丁の上方に常禱院の隠居所があり、ここは毛利家の祈祷所で墓も門徒もない寺であった。蛤御門の変に敗れ、長州征伐を受けることになったので、謝罪として、この変を指揮した三家老は切腹を命じられた。その一人益田親施がこの寺で切腹した。



益田右衛門介親施

御貴庵（ごきわん）丘跡

この付近一帯は、昔、野上の庄の穀物園と呼ばれていた。天文時代悪病が流行し多数の人が亡くなったり、災害がたびたび発生したりして、住民は貧苦のどん底に落ち込んで苦しんでいた。

当時領主は陶氏の重臣・野上修理亮義忠氏で、城山に城を築き、ふもとの御貴庵に館を構えてこの地を治めていた。

氏はこの貧苦を救うため、御貴庵丘の高地で身を清め、武運長久と住民の安泰を祈願し、酒酔谷（栄谷）より流れる川に、一ノ井手及び二ノ井手を造って農作に力を入れたので、領内は再び繁栄したという。

野上氏の遺臣に野村と称する姓があるといわれている。

